世田谷区史 編さんだより

世田谷区政策企画課
区史編さん担当
〒154-0021
世田谷区豪徳寺2-28-3
厚生会館内
TEL 03(6432)6144
FAX 03(6432)6145

第４号　令和２年（2020）３月

■田直遺跡発掘調査風景（東京都埋蔵文化財センター撮影）
写真左上の低地が土器捨場

■流木と土器の出土状況

《発見》縄文人の“土器捨場”

◆出土遺物の再整理・見直しを進めています

23 区で最多の遺跡数（約 300 ヶ所）を誇る世田谷区では他区に先駆け、昭和 50 年 (1975) 頃から遺跡調査体制の充実を図り、本格的な発掘調査を行ってきました。それから半世紀余りが過ぎ、膨大な記録と出土遺物が蓄積された結果、原始古代人たちの多彩な営みが明らかになっています。

区史編さん原始・古代部会では、『考古編』の刊行に向け、現在、膨大な量の出土遺物を再整理し、見直す作業を進めています。

◆谷を利用した“土器捨場”

今回紹介するのは、現在の野川沿いにある大蔵５丁目の田直遺跡第１次調査で最近見つかった縄文時代の“土器捨場”です。田直遺跡第１次調査は、平成 27 年 (2015)、東京外かく環状道路建設事業に伴い、東京都埋蔵文化財センターが行ったものです。

この土器捨場は、縄文時代後期の集落の西側に位置する谷底低地（当時、この谷底を旧入間川が流れていた可能性があります）で見つかりました。そこからは、実に６万点近くにも及ぶ土器片が出土したのです。谷を利用した縄文時代の土器捨場は、世田谷で初めての発見でした。

◆土器捨場から見つかった珍しい形の土器

土器捨場から出土した土器片は、その大半が今からおよそ４千２百～３千８百年前の縄文時代後期（堀之内式ないし加曽利Ｂ式）の土器です。この土器捨場の東側の台地で同時期の住居跡が見つかっているので、そこに居住していた人々がこれらを投棄したものと考えられます。また、その中には、注口土器（注ぎ口と把手が付いた土瓶や急須の形をした土器）や内側全面に漆が付着した土器、漆による補修のある土器などがあり、特殊で珍しい遺物がひときわ目をひきます。

注口土器は、これまでも区内の諏訪山遺跡や奥沢台遺跡から出土していますが、集落遺跡での出土はごく限られています。しかも復元するとほぼ完形となるような個体が５・６点にも及ぶ例は、これまで区内にはありませんでした。これは人々が長い間ここを土器の廃棄場所として利用し続けたからなのではないでしょうか。

■土器捨場から出土した注口土器（縄文時代後期）

◆漆の用途は？

一般に注口土器は、出土量の多い深鉢形土器などに比べて精巧に作られていることや、出土例が希少であることから、日常品ではなく、祭祀に関連して用いられたとする説が有力でした。

しかし、田直遺跡で出土した注口土器を観察してみると、使用によって器表が摩耗したものや、漆によって注口を接着した補修の痕を残すものが多数認められます。また、漆を接着材として使用した例は注口土器以外にも見られます。

このことを踏まえると、注口土器は、祭祀にのみ限定使用されていたわけでなく、実用品としても用いられていたと考えられます。出土品の一部には、彩色のための下地として漆が塗布された土器も見られますが、田直遺跡では専ら漆が接着材としての役割を担っていたようです。

土器捨場は、当時のごみ捨場に他なりませんが、貝塚などと同様に、現代の我々に貴重な情報をもたらしてくれるのです。

■漆保管容器

■漆保管容器の内面

「幻のオリンピック」と総合競技場－国土地理院所蔵の写真から

昭和 15 年 (1940) に予定されていた第 12 回東京オリンピックの返上は、各方面に甚大な影響を与えました。しかし東京市は招致自体を全く諦めたわけではありませんでした。将来の開催に備え、主競技場予定地であった駒沢ゴルフ場敷地に「駒沢綜合競技場」を建設しようと、すぐに動き出しています。

■（写真 1）予定地だった駒沢ゴルフ場。うっすらとゴルフコースが確認できます。（昭和 11 年 8 月／陸軍省撮影）

もともと東京市は「大東京市将来の計」を念頭に、総合競技場の建設を目論んでいたのです。ところが資材不足などでこの構想はすぐに破綻します。そこで東京市はこれに代わる場所を撤去予定の淀橋浄水場に求めましたが、それも適いませんでした。駒沢の予定地を運動場や公園にしようという声もありましたが、戦時中は防空緑地とされ、その後陸軍省や軍需省が使用したようです。

昭和 23 年 (1948) には農林省が同地を買収して食糧増産用地としますが（写真 2)、翌 24 年に東京都が買い戻し、第 4 回国民体育大会の際はハンドボールなどの会場として使用されました。そして 26 年、東京都は同地で「東京都駒沢総合運動場」の建設に着手します。

■（写真 2）農地化により境界が不明瞭ですが、一方で周辺の宅地化も進んでいます。（昭和 23 年 3 月 3 日／米軍撮影）

一方世田谷区は、翌 27 年に早くもオリンピック会場の誘致に乗り出しました。昭和 28 年には、のちに東映フライヤーズの根拠地となる駒沢球場も建設されましたが、敷地内はまだ未整備な運動場でした（写真 3)。

■（写真 3）28 年に完成した東映フライヤーズの本拠地、駒沢球場が見えます。（昭和 32 年 10 月 10 日／米軍撮影)。

しかし東京都は、昭和 34 年 (1959) に第 18 回オリンピックの誘致に成功すると、同地をオリンピックの第二会場に決定、都市計画法に基づき公園整備事業を進めました（駒沢オリンピック公園)。

第 12 回東京オリンピックは「幻」となりましたが、戦争を経て、東京市所期の目的であった総合競技場の建設は達成され、「東京都唯一の総合運動場を併せもつ公園」として現在に至っています。

(参考・引用文献は 4 ページ)

貴重な資料のご寄贈・情報のご提供ありがとうございました

『区史編さんだより』などをご覧になられた皆様から貴重な資料をご寄贈いただきました。

寄贈者のお名前	主な寄贈品
安曽　徳市郎　様	新住居表示案内図（昭和 41 年）
岸和田　貞子　様	暮しの手帖（昭和 23 ～ 40 年）
新堀　和由　様	下馬地区区画整理組合事業報告書（昭和 17 年）
竹村　津絵　様	株券（満州）及び関連の領収書（昭和 16 年）
沼田　敦子　様	不動産帳簿（昭和 21 年）
原田　宏子　様	大東京明細地図（昭和 17 年）
廣田　勝彦　様	家族写真（大正 11 年）

ここにお名前をご紹介できなかった方々からも多くの資料や情報をいただきました。

皆様からお寄せいただいた資料や情報は、区史編さんに活用させていただきます。

■ 2019 年 3 月～ 12 月調査先一覧

月	調査
3 月	・彦根城博物館 (近世)
5 月	・寒川文書館 (5 月～ 10 月、近世) ・杉並　大場家（近世）
6 月	・医王寺・太田家 (近世) ・大田原市　川上家（中世） ・祖師谷　原家（近現代） ・昭和館（近現代）
8 月	・品川歴史館（近世・近現代） ・東北大学文学部（中世） ・奥州市立水沢図書館（中世） ・東京都公文書館（近現代）
9 月	・ふじみ野市大井郷土資料館 ・個人宅（中世）
10 月	・狛江市史編さん室（近世・近現代）
11 月	・駒澤大学図書館（近世） ・深大寺（中世）

◆ちょっと待って！　捨てる前にひとことご連絡を◆

皆様のお宅の押入れや物置に、古い写真、アルバム、手紙、はがき、様々な書類、レコード、カセットテープ、８ミリフィルム、ビデオテープ、地図、家計簿、新聞、雑誌、チラシ、書画、絵画などが眠っていませんか。これらは貴重な歴史資料です。お捨てになる前に、まずは担当までご連絡をお願いします。

区では、皆様のお宅に眠っている資料を発掘、収集し、地域に生きた人々の暮らしぶりが活き 活きと伝わる区史にしたいと考えております。

また、戦時中の体験談などを皆様に直接伺い、記録に残していきたいと思います。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

区史編さん担当　03（6432）6144

『世田谷　往古来今』発売中

■価格 /1100 円

■販売場所 / 区政情報センター（世田谷区民会館内）、総合支所区政情報コーナー、郷土資料館、世田谷文学館、世田谷美術館

誤字などが多かったため、平成 30 年 4 月に改訂版を作成しました。初版本をお求めいただいた方には、無料で改訂版とお取替えをいたしております。上記販売場所まで初版本をお持ちください。

■ 3 ページの参考・引用文献

東京市『第十二回オリンピック東京大会東京市報告書』）（昭和 14）／東京都『第十八回オリンピック競技大会東京都報告書』（昭和 40）／世田谷区『世田谷区議会史』（昭和 45）／都スポーツ文化事業団「事業報告書」（朝日新聞記事データベース）／写真 1 ～ 3（国土地理院ウェブサイトの写真を加工）

次回第 5 号の発行は、令和 2 年（2020）9 月中旬の予定です。